

次期（平成 22 年度-23 年度）専門研究会設置依頼

1. 専門研究会の名称

放射線安全パラダイム検討のための基盤整備専門研究会

2. 提案者名

阿部 琢也（東京大学 大学院工学系研究科原子力専攻） abetaku@nuclear.jp

3. 提案理由

近年、世界的に原子力リスクが言われる中で、それに対応する言葉として放射線安全に関するパラダイムシフトが叫ばれるようになった。このような諸外国の様々な動向を受けて、日本の意向を近年中に海外へ伝達すべきであり、その伝達を行う中で世界の先頭に立って放射線防護の諸問題を議論することが我々にとって必要と考える。そのような背景から、平成 20 年度から当学会の専門研究会として、従前からの放射線防護の考え方のレビューを基に、放射線安全についての新しいパラダイムを検討することを目的としてスタートした。

前期では、放射線生物影響の最新の知見、現在の放射線防護の枠組みとその不合理性、および、国際的な放射線防護に関する動向等についての実情調査を話題として、議論を展開してきた。この議論を通して、「放射線によるリスクを社会が正しく認知し受容することを目的として、自然放射線・医療用人工放射線・医療以外の人工放射線の三分野に関わるそれぞれの防護体系の整合性や、放射線とそれ以外のリスクの整合性が確立することが重要である。このことが新しいパラダイムの方向性であり、正しい科学知見に基づく健全な防護体系を構築することにつながる。」ということが、委員の共通認識として得られた。

現段階では、前期に整理した事柄を保物学会の中だけで共有するに留まっているため、より実効的な活動を行うために、二期目の設置を依頼する。

4. 計画の概要

次期では、前期に行ってきた実情調査報告の内容とそれに対する議論を基に、各関係者との意識共有を図ること、および、対外的に活動を行っていく予定である。また、活動や議論を通して得られた考え方を海外との協力的活動（例えば、電事連と米国 NEI）を通して世界へ発信するための基盤を構築するための期間とする。

5. 予算

委員会開催費（交通費、資料印刷費等） 年間 20 万円

6. 予定される研究会員名

主査候補者：小佐古敏荘（東京大学）

研究会員予定者：稲瀬澄男（四国電力）、岩井敏（三菱総合研究所）、金子正人（放射線影響協会）、齋藤実（東北電力）、鈴木良男（東京電力）、中居邦浩（日揮）、服部隆利（電力中央研究所）、二ツ川章二（日本アイソトープ協会）、宮崎振一郎（関西電力）、山本英明（日本原子力研究開発機構）、吉澤道夫（日本原子力研究開発機構）

米原英典（放射線医学総合研究所）、我妻真（日本原燃）、阿部琢也（東京大学）（幹事）

7. 設置予定期間

一期